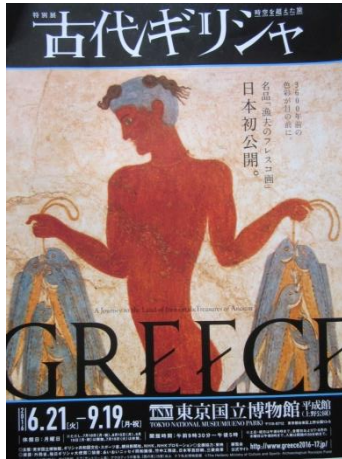


時空を超えた旅 特別展 「古代ギリシャ」

東京国立博物館（上野公園） 2016.06.21～09.19 長崎・神戸を巡回

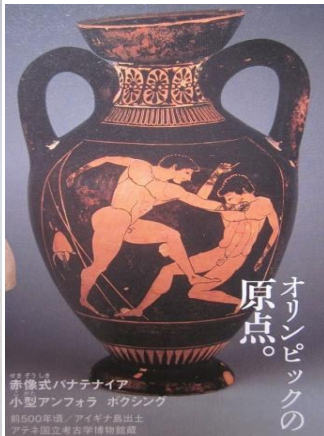


古代ギリシャをめぐる旅は、「ミノス文明」よりも何千年も古い「新石器時代」から始まり、紀元前 7000 年頃、ギリシャの人々は定住して農耕や牧畜を行うようになり、神々への祭祀や葬祭のために人の形の像をつくり祈りを捧げた。

本展は「全 325 件」の展示品の大半が日本初公開の国内史上最大級の「ギリシャ展」で、随所に工夫をこらした展示は見応えがあり奇跡の開催とされている。

《展覧会の構成と見どころ》

- 1章 古代ギリシャのはじまり（前 7000 年頃～前 2000 年頃）
「スペドス型女性像」 クフォニシア群島出土か
- 2章 ミノス文明（前 3200 年～前 1100 年頃）
エーゲ海の南のクレタ島に花開いた開放的な海洋文明は、伝説の「ミノス王」の名前をとって「ミノス文明」あるいは「クレタ文明」と呼ばれている。
「漁夫のフレスコ画」（写真上） テラ（サントリーニ）島の集落から出土され、3600 年前の色彩が芸術的で色鮮やかであることで注目されている。
- 3章 ミュケナイ文明（前 1600 年頃～前 1100 年頃） 「円形飾り板」
- 4章 幾何学様式～アルカイック時代（前 900 年頃～前 480 年） 「クーロス像」
「コレー像」（写真下左）



- 5章 クラシック時代
「アリストテレス像」「競技者像」
- 6章 古代オリンピック
「赤像式パナテナイア 小型アンフォラ ボクシング」
(写真横右)
- 7章 マケドニア王国
「アレクサンドロス頭部」
- 8章 ヘレニズムとローマ
「アルミテス像」